

とり良質土(主として排水のよい、支持力が大きいもの)に置き換えること、あるいはまれに粗朶(そだ)類を敷くこともある。すでに使用されている路盤の改良には、路盤の置換、排水管理設等が一般に採用されるが、場合によってはセメント類、あるいは薬液等を注入して悪い部分(ウォーターポケット)の固結を図ることがある。

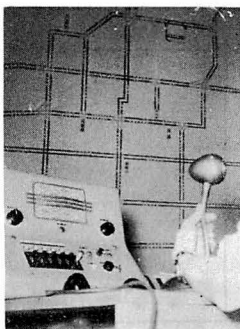
寒冷地帯の凍上防止としての路盤改良は良質土の置換工法をとっている。すなわち路盤上面を幅3.0~5.0m、深さ0.5~0.8m程度掘りとり排水のよい資料(砂・砂利・栗石・石炭焚殻等)と入換えるもので、通常「路盤の置換」と呼んでいる。ずいどの路盤改良としては路盤コンクリートがある。(別所多喜次)

ろめんきどう 路面軌道 軌道法(大正10年法律第76号)により敷設された軌道のうち、道路上その他の公衆の通行する場所に敷設した軌道をいう。法制上これを**併用軌道**といい(軌道建設規程第3条)、道路上に敷設しないものを**新設軌道**といい区別している。路面軌道は軌道敷も道路の交通に使用するため、軌道敷の構造は単に軌道車両のみの運転に耐えるばかりでなく、道路の交通にも耐える構造としなければならない。→軌道。路面電車。新設軌道。(安藤 榮)

ろめんてんしゃ 路面電車 道路上に敷設された電車をいい、一般には軌道法により軌道として特許されたものであるが、まれには地方鉄道法第4条によって主務大臣(建設大臣)の路面使用許可を受けた上、地方鉄道として運輸大臣の免許を受けているものもある。軌道ではこれら道路上その他公衆の通行する場所に敷設する軌道を併用軌道といい、他の新設軌道と区別している(軌道建設規程第3条)。併用軌道は原則として道路の中央に敷設し、道路の種類によりべつに定められた車体外有効幅員を存することとなっているが(同第8条)、街路、とくに主要な国道以外では、規定の車体外有効幅員を存して、道路の一方に偏して敷設することもできる(同第9条)。路面電車には東京都営および大阪、名古屋、京都等の市営のように、地方公共団体によって経営されているものも多いが、阪神電鉄の国道線のように私企業として経営されているものも多い。(福田四郎)

ろめんてんしゃいちひょうじそうち 路面電車位置表示装置

路面電車の円滑な運転をはかるための装置。大都市の路面電車は運転系統が多く、その系統は網状であって総合運転ダイヤ編成ができない。また停留場に係員の配置がなく、停留場相互間、停留場と中央運転指令間に通信設備がない。そのため電車の運行は交差点の交通信号待ちによる制限や、停留場の乗降客による停車時分の増加などによって乱れがちとなるものである。この場合運転を正規の状態に復したため、または円滑な運転を行うためには、中央運転指令者が電車の刻々の運行状況



1. 電車位置表示盤

を知り、適切な指令を速かに現場へ伝える必要がある。そこで電車の運行状況を知るための装置と、現場に指令を伝える無線指令装置が考案された。現在大阪市交通局で利用されている。(写真-1,2)。電車位置表示装置はつぎのものが構成されている。

1 電車位置表示盤 中央の運転指令室に設置してある。この盤面には全線にわたる電車線路が表示されており、線路は各交差点間を一区間としてそれぞれ区分されている。各区間には豆ランプが数個または10数個取付けられ、このランプの点灯

した数によって、その区間にある電車の数を知るようになっている。

2 トロリーコンタクター 前記表示盤の線路区分と同様に現場の線路も区分され、その各区分点にトロリーコンタクターを取付け、この下を電車が通過するとき、ビューゲルでレバーを押上げて電氣的接点を閉じるのである。



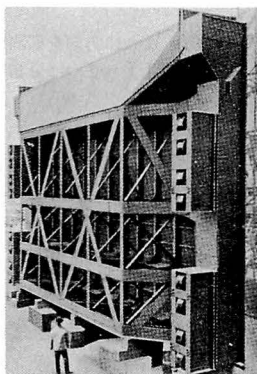
2. バトロールカー

3 継電器群 通過電車のビューゲルにより、トロリーコンタクターが接点を閉じると、電線路上に電気が流れ、中央指令室に設置してある継電器群が動作する。これにより表示盤の豆ランプは通過した電車の数だけ前区間は消灯し、進入した区間は点灯する。このようにして刻々の電車の運行を表示するのである。

4 無線指令装置 現場の全線には、自動車に無線電話を装置したパトロールカーを数台配置して、中央指令室と連絡しながら受持区域を巡回しており、指令が発せられるやただちにその現場におもむき運転整理を行うのである。(浦島海平)

ローラ・ゲート (英)roller gate 門扉と戸当り金物との間にローラをそう入して水圧による摩擦抵抗を軽減して、門扉の開閉を容易ならしめたもので、大形の、高水圧を受ける制水門として用いられる。扉体は単純けたとしゃ水板から成り、ローラの取付方式によって種々に分類される。

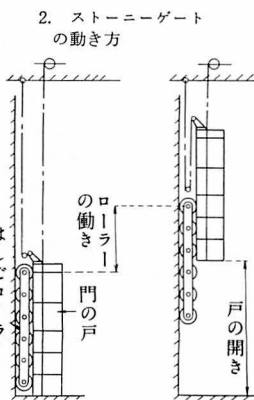
1 固定ローラ・ゲート ローラが扉の両端に固定して取付



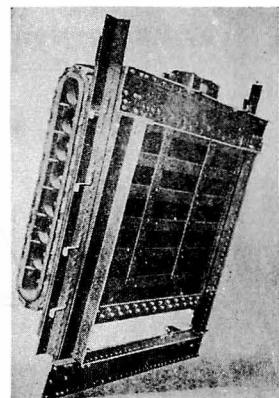
1. 固定ローラ・ゲート

けられた形式で、大形のものにはローラの数が増えるので、ロッカの装置を取付けて荷重が各ローラに等分に加わるようにしてある。最近の大形水門はこの形式のものが多い。固定ローラ・ゲートの一種にサーニットゲートがある。これは閉扉位置でローラは戸当り金物の凹部にはまり込み、水密板が密着するようにしてあり、高水圧取水口などに用いられる。

2 ストリーナーゲート 扉体と戸当り金物との間に、扉



2. ストリーナーゲートの動き方



3. キャタピラゲート